

名古屋事務所での経験を活かして 可能性を大きく広げることができる

PwCあらたでは、各職員の専門領域の拡充や、中長期的なキャリアプランの実現を支援するため、さまざまな異動支援プログラムを備えています。そのひとつに、社内外の公募ポジションへ自ら挙手して異動を実現する「OEP(Open Entry Program)」があります。

名古屋事務所での経験を足掛かりに、東京や大阪、福岡の各事務所への部門・地域間異動により、新しいクライアント領域や業務にチャレンジしたり、その他にも、海外を含めたPwCネットワークや、外部関係機関等へ出向する機会が用意されています。それら多様な機会を活用しながら、みなさんの可能性を大きく広げていただきたいと思います。

ちなみに、業界団体や会計基準設定団体といった外部関係機関への出向では、業界

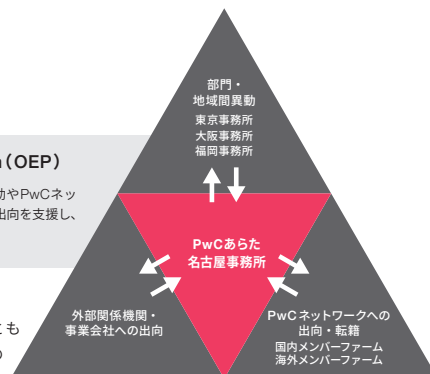
Open Entry Program (OEP)

法人内の部門・地域間の異動やPwCネットワーク、外部関係機関への出向を支援し、キャリアアップを図れる制度

全体の活動に貢献するとともに、会計基準設定者としての考え方を身に付け、出向から

の帰任後に監査をはじめとする会計士業務に活かしていくことができます。

なお、このOEPでは、キャリア開発の機会・門戸を広げていくことを目的としています。そのため、異動希望先の部署において受入れ可能と判断すれば、現所属部署はその職員の

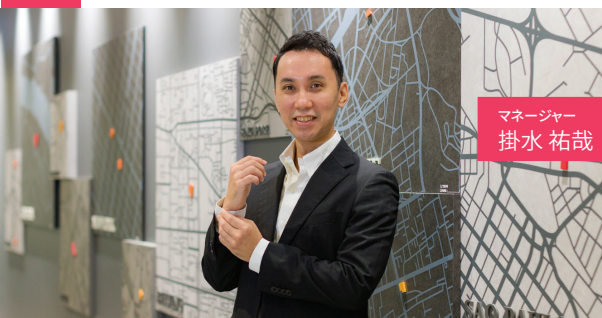


キャリアを積極的に後押しする仕組みとされていることも、その特徴のひとつです。

これまでも、このような機会を活用して、多くの職員が名古屋事務所での経験を活かし、国内外で活躍し、可能性を広げています。

外部団体出向

圧倒されても、諦めずに前に進んだ その経験を次は現場で役立てる



マネージャー
掛水 祐哉

名古屋事務所で監査業務に従事した後、2013年から約3年間、OEPを利用して企業会計基準委員会(ASBJ)に出向しました。ASBJは日本の会計基準の開発・設定を行う民間組織です。ASBJか

ら帰任し、その後2年間、アカウントینگ・サポート部という会計に関する相談を受ける部門を経験し、現在は東京事務所の監査部門に所属しています。ASBJを出向先に選んだ理由は、会計基準に深

い知見を持つ方々と働くことで自分が成長できると考えたからです。出向当初はASBJ内の議論のスピードについていけず、ASBJの方々が持つ会計知識の量の迫力に圧倒されました。しかしながら、拙いながらも試行錯誤しながら文案を書き続けて何度もレビューを受け、何とか会計基準などの公表をするまでに至りました。こうした経験を通して、想像以上の成長ができたことを実感しています。帰任後は会計基準関連の研修で講師を務めたり、新たな会計基準案が公表された際にPwCあらたとしての見解を取りまとめる業務に携わっています。今後は監査現場において、クライアントが適用する会計基準に対して指導的機能を存分に発揮していきたいと思っています。

部門・地域間異動(東京)

それぞれのキャリアプランを積極的に 支援してくれる だから未来に向け挑戦できる

名古屋事務所で約6年間、自動車業界を中心とした会社の金融商品取引法監査および会社法監査に従事した後、2019年度にOEPを使用して東京事務所のMDS IPOソリューション部に異動しました。現在は株式公開(IPO)を目標とするクライアントの適切な会計処理、内部統制の整備、その他上場に向けた支援業務を行っています。

OEPを利用したのは、名古屋事務所でのIPOを目指す会社の監査に従事したことがきっかけです。2年から5年にも及ぶIPOプロジェクトの過程では、さまざまな課題、困難に直面しますが、そうした課題の

マネージャー
小野 一貴



1つ1つを解決し、会社も社員も成長することで上場することができます。監査の仕事を通じて、自分もまたそのような会社の成長により多く関わりたいと感じ、異動希望を出しました。前所属部署である名古屋事務所のパートナーの方々からも、現所属のパートナーの方々にも、私のキャリアプランを真摯に受け止めていただき、成長を応援してもらっています。異動の

話はしづらいと思われるかもしれませんが、PwCではどの部署においてもスタッフのキャリアプランを応援し、支援してくれます。現在の部署で1年間業務を行い感じたことは、監査の知識・経験の重要性です。今後も監査業務にも従事しながら、監査経験に基づいたアドバイスができるIPOアドバイザーになることを目指しています。

部門・地域間異動(大阪)

名古屋事務所での経験が土台になった 他地域での経験をいつの日か名古屋に戻って活かしたい

名古屋事務所で約2年間、主に総合商社の監査業務に従事した後、OEPに応募して大阪事務所に異動しました。異動当初は、関西地区の上場企業の監査業務に従事していましたが、異動して1年経った現在は、アドバイザー業務を専門とする

チーム(CMMAS)の一員として、IFRS導入アドバイザーや新ソリューションの開発等に携わっています。

まだまだ経験も浅かったため他地域に異動することに多少不安もありましたが、名古屋事務所で大規模クライアントを担

当した経験を活かすことで、新たなチームでも活躍できました。名古屋事務所は東海地区の大規模クライアントを非常に多く担当していますので、ほとんどの新人がそういったクライアントを通じて、会計士としての土台を築くことができます。大規模クライアントでしか味わえないスケール感を新人のうちから経験できることは大変貴重ですので、是非とも法人選びの参考にして下さい。

入社する前は、自分が大阪で働くことやアドバイザー業務に携わることは全く想像していませんでしたが、入社後2年目から新しい分野の業務を経験させてもらったことで、自身の汎用性や専門性を高めることができていると感じています。

OEPを利用して挑戦することを応援してくれた名古屋事務所に戻りたいためにも、将来的には名古屋事務所に帰任し、OEPの経験を活かして東海地区の企業の発展に貢献したいと考えています。

シニアアソシエイト
渡邊 啓史

